

漢語サ変動詞「離 N する」の意味と構文

張 善実

1. はじめに

本研究では、語構成論の観点から「離陸する」や「離任する」のような漢語サ変動詞「離 N する」の意味的・構文的特徴について考察し、「離 N する」には「離陸類」、「離党類」、「離任類」、「離婚類」、「離縁類」、「離間類」の6つのタイプがあることを指摘する。¹

小林(2001、2004)、中川(2005)は、「離(V)陸(N)する」や「離(V)任(N)する」のような漢語サ変動詞(以下、V-N型漢語動詞)が語外部にさらに項(N'P)を取る場合、そのN'Pは語内部の語構成と関わると述べている。しかし、これらの研究では語内部の名詞的要素Nに重点が置かれており、動詞的要素Vにはほとんど言及されていない。そのため、どのような動詞がどのようなN'Pを取り得るかまで掘り下げて考察するには至っていない。

本研究では、V-N型漢語動詞のうち「離Nする」を分析対象に(i)「離Nする」の内部構成と、(ii)「離Nする」の外部構成、(iii)N'PとNの意味関係の3つの側面から分析し、「離Nする」がN'Pを取るか否か、N'Pを取る場合、どのような動詞がどのようなN'Pを取るかについて分析する。

まず、(i)「離Nする」の内部構成とは、「離Nする」の「離」とNがいかなる格関係で結合しているかについて言うものである。「離Nする」には「離」が「離れる」という自動詞の意味で使われるものと「離す」という他動詞の意味で使われるものの二通りがある。このうち、「離れる」という自動詞の意味で使われるものにはNが〈離脱点〉を表す場合のみで、〈移動物〉を表す場合はない。一方、「離す」という他動詞の意味で使われるものにはNが〈距離〉や〈関係〉を表す場合はあるが、〈移動物〉、〈離脱点〉を表す場合はない。このように「離Nす

¹ 本稿は張(2013b)の第3章第2節を加筆修正したものである。

る」の内部構成要素の結合パターンは表1に示されるように I 類と II 類に分類できる。

表 1 「離 N する」の内部構成要素の結合パターン

「離」	N<移動物>	N<離脱点>	N<距離／関係>
離れる (自)	×	I 類: [Nを(から)離れる] (「離陸する」) [Nを(から)離れる] (「離党する」) [Nを(から)離れる] (「離任する」)	×
離す (他)	×	×	II 類: [Nを離す] (「離間する」) [Nを離す] (「離縁する」) [Nを離す] (「離婚する」)

次に、(ii)「離 N する」の外部構成とは、「離 N する」が文の形成においていかなる項 N'P を取るかについて言うものである。「離 N する」には(1)の「離陸する」、(2)の「離任する」、(3)の「離婚する」のような自動詞用法のものと、(4)の「離間する」のような他動詞用法のものがある。また、同じ自動詞用法のものでも、「N'P を離陸する」や「N'P を離任する」のように N'P を取ることができるもの((1)、(2a、b))と、「離婚する」のように N'P を取ることができないもの((3))とがある。

- (1) 飛行機が空港を離陸する。(自)
- (2)a. 健二が今の職場を離任する。(自)
- b. 健二が役員を離任する。(自)
- (3) 山田夫婦が離婚する。(自)
- (4)a. 恋敵が二人の間を離間する。(他)
- b. 恋敵が二人を離間する。(他)

続いて、これらの動詞の(i)内部構成と(ii)外部構成における自他性に目を向けると、「離 N する」には(5)、(6a、b)、(7a、b)の下線部のように内部構成の自他と外部構成の自他が一致するものが多い。

- (5) 飛行機が空港{を／から}離陸する。(自)…[陸{を／から}離れる](自)
- (6)a. 健二が今の職場を離任する。(自)…[任務地を離れる](自)

- b. 健二が役員を離任する。(自)…[任務を離れる](自)
 (7)a. 恋敵が二人の間を離間する。(他)…[間を離す](他)
 b. 恋敵が二人を離間する。(他)…[間を離す](他)

一方、「離 N する」には、(8)のように内部構成の自他と外部構成の自他が一致しないものもある。例えば、「離婚する」は内部構成においては「婚姻関係を離す(解消する)」という他動詞用法であるが、外部構成においてはヲ格を取らない自動詞用法である。

- (8)a. 息子が嫁と(*婚姻関係を / φ)離婚する。(自)…[婚姻関係を離す](他)
 b. 姑が息子と嫁を{*離婚する / 離婚させる}。(自 / 使役)

最後に、(iii)「離 N する」の N'P と N の意味関係とは、「N'P を離 N する」における N'P と N の意味関係について言うものである。「離 N する」が外部構成において N'P を取る場合、その N'P と N の意味関係には、(9) (10a, b) (11a) のように「下位語-上位語」関係のものと、(11b) のように「所有者-所有物」関係のもの二通りがある。

- (9) 飛行機が 空港を 離陸する。
 <離脱点> <離脱点>
 (下位語) (上位語)
- (10)a. 健二が 会社を 離任する。
 <離脱点> <離脱点>
 (下位語) (上位語) … N「任」: 「任務地」
- b. 健二が 役員を 離任する。
 <離脱点> <離脱点>
 (下位語) (上位語) … N「任」: 「任務」
- (11)a. 恋敵が 二人の間を 離間する。
 <移動物> <移動物>
 (上位語) (下位語)
- b. 恋敵が 二人を 離間する。
 <移動物> <移動物>
 (所有者) (所有物)

このように、同じ「離 N する」の中にも (i) 内部構成、(ii) 外部構成、(iii) N'P と N の意

味関係において複雑な様子を見せているが、従来はほとんど論じられていない。よって、V-N 型漢語動詞の意味的・構文的特徴に関する研究の一環として、本研究では「離 N する」を取り上げ、(i)内部構成、(ii)外部構成、(iii)N'PとNの意味関係といった3つの側面から分析する。

2. 先行研究

まず、V-N 型漢語動詞の統語機能に関する先行研究について述べる。小林(2001、2004)は、V-N 型漢語動詞が N と関係付けられる項を統語的に取るか否かという観点から V-N 型漢語動詞を①～③の3つに分けている。

① 項を取れないタイプ:

「飲酒する」、「挙式する」、「処刑する」、「尽力する」など

② 項を取れるタイプ:

「投票する」、「登山する」、「入院する」、「預金する」など

③ 項を取らなければならないタイプ:

「開封する」、「観戦する」、「除名する」、「登頂する」など

小林(2001、2004)はまた、文中で項を取れる場合、項と名詞的要素 N は、「大学に入学する」の「大学」と「学」のような「包摂関係」、または「手紙を開封する」の「手紙」と「封」のような「所属関係」にあると論じている。

一方、中川(2005)は V-N 型漢語動詞の外部表示の名詞(N'P)と語内部の名詞(N)の間には、「包摂関係」と「所属関係」のほかに「前提関係」が存在することを主張し、V-N 型漢語動詞を以下の①～④の4つに分類している。

① 包摂関係・外部表示が必須:

入学、入庁、開会、開館、発音、築城、提案、上映、立案、殺菌

② 包摂関係・外部表示が任意:

入院、預金、送金、発砲、作曲、作詞、作画、作文、発声、増税、減税、組閣、
布教、換気、除湿、借金、貯金、着席

③ 所属関係:

登頂、開封

④ 前提関係:

録音、録画、執筆、執刀、発砲

中川(2005:98)で言う「前提関係」とは、「CDを録音する」のように「VN 内の名詞が外部表示の名詞の存在によって、なくてはならない存在に相当する」場合に両者間で生じる関係を言う。また、包摂関係について中川(2005)は、小林(2001、2004)より広い意味で捉えている。例えば、小林(2001、2004)は「円卓に着席する」は所属関係による特定であり、「運転席に着席する」は包摂関係による特定としている。それに対し、中川(2005)は「円卓に着席する」と「運転席に着席する」の外部表示と語内部の名詞との間に、「意味的な包摂関係が認められ、別の関係を仮定する必要はない」と述べている。

このように、小林(2001、2004)と中川(2005)は、V-N型漢語動詞が語外部にさらにN'Pを取る場合、そのN'Pは語内部の語構成と関わると述べている。しかし、これらの研究は主に名詞自体(NとN'P)の性質に着目しているため、どのような動詞がどのようなN'Pを取り得るかまで掘り下げて考察するには至っていない。張(2013a)で述べたように、V-N型漢語動詞は語内部にVとNを含んでおり、その統語機能を考察するには、(i)内部構成(VとNの意味関係)、(ii)外部構成(「V-Nする」とN'Pの意味関係)、(iii)N'PとNの意味関係の3つの側面からの分析することが必要である。本研究は、こうした分析方法がV-N型漢語動詞の意味的・構文的特徴を考察するに当たって重要であることを「離Nする」を中心に論じるものである。

3. 本動詞の意味

「離Nする」の意味的・構文的特徴について論じる前に本動詞の意味について概観する。「離Nする」には以下の2つの本動詞に対応する。

(A) 離れる(自)

例:離党する[党を(から)離れる]、離任する[任務を離れる]

(B) 離す(他)

例:離縁する[縁を離す]、離間する[間を離す]

以下、本動詞「離れる」、「離す」のそれぞれの意味について概観し、その中のどの意味と「離Nする」の意味が対応するかについて見る。

まず、自動詞「離れる」の意味について見る。『大辞泉増補・新装版(デジタル版)』(松村明監修(2006))と『明鏡国語辞典』(北原保雄編(2010))でも指摘されているように「離れる」は大きく以下の5つに分けられ、意味①～③は意志自動詞の用法で、④⑤は無意志自動詞の用法で用いられる。このうち、「離Nする」と対応するのは意味①と意味②となる(「離陸する」、「離党する」など)。

本動詞「離れる」の意味:

- ① それまでいた場所から遠ざかる。(意志的)
「ベッドから離れる」「現場から離れる」「親元を離れる」「飛行機が陸を離れる」
- ② それまでいた職務や仕事をやめる。または組織から遠ざかる。(意志的)
「管理職を離れる」「会社を離れる」「与党を離れる」「チームを離れる」
- ③ それまで一緒だったのが別々になる。(意志的)
「結婚してから親と離れて暮らす」「家族が離れて暮らす」
- ④ 二つの間に距離・年齢などの隔りがある。(無意志的)
「二人は年が離れている」「学校は家から離れている」「彼は妹と5歳離れている」
- ⑤ かかわりがなくなる。(無意志的)
「恋人から気持ちが離れる」「話が本筋から離れる」

次に、他動詞「離す」の意味について見る。『大辞泉増補・新装版(デジタル版)』(松村明監修(2006))と『明鏡国語辞典』(北原保雄編(2010))でも指摘されているように「離す」は大きく以下の2つの意味に分類できる。このうち、「離Nする」と対応するのは意味②(「離間する」など)となる。

本動詞「離す」の意味:

- ① ある場所にあったものをそこから遠ざける。分離する。
「ハンドルから手を離す」「壁から机を離す」「付箋を離す」「本から目を離す」

② 二つの間や関係を隔てる。解消する。

「二人の仲を離す」「少し離して植える」

このように、他動詞「離す」には、人がある場所にくっついているものや近くにあるものをそこから移動させることを表す場合と、人が二つの間や関係を隔てることを表す場合がある。

以上、「離 N する」の本動詞「離れる」、「離す」の意味について概観したが、「離 N する」の意味は本動詞の意味より限定されて用いられることが分かる。つまり、本動詞「離れる」は大きく①～⑤の意味を有するのに対し、「離 N する」はそのうちの①②の意味に限定される。また、本動詞「離す」は大きく①と②の意味を有するのに対し、「離 N する」はそのうちの意味②に限定され、意味①に対応するものはない。本動詞「離れる」、「離す」と「離 N する」の対応関係を表 2 に示す。

表 2 本動詞「離れる」と「離 N する」の対応関係

本動詞「離れる」		離 N する
離れる (自)	①それまでいた場所から遠ざかる。 例:「飛行機が陸を離れる」「船が岸を離れる」「船から離れる」 「島から離れる」「東京を離れる」「日本を離れる」	離陸する、離岸する、 離船する、離水する、 離京する、離日する
	②それまでいた職務や仕事をやめる。または組織から遠ざかる。 例:「管理職を離れる」「会社を離れる」	離党する、離職する、 離任する
	③それまで一緒だったのが別々になる。 例:「結婚してから親と離れて暮らす」	*離親する
	④二つの間に距離・年齢などの隔たりがある。 例:「二人は年が離れている」「学校は家から離れている」	*離年する
	⑤かかわりがなくなる。(無意志的) 例:「話が本筋から離れる」「恋人から気持ちが離れる」	*離話する
離す (他)	①ある場所にあったものをそこから遠ざける。分離する。 例:「ハンドルから手を離す」「本から目を離す」	*離手する *離目する
	②二つの間や関係を隔てる。解消する。 例:「二人の仲を離す」	離間する、離婚する、 離縁する

4. 「離 N する」の特徴

ここでは、「離 N する」の意味的・構文的特徴について考察する。1節で述べたように「離 N する」は(i)内部構成要素の結合パターンによってⅠ類とⅡ類に分けられ、(ii)外部構成によってさらに4つに分類できる。分類ごとの格成分の意味役割およびN'PとNの意味関係を示すと表3のようになる。

表3 「離 N する」の分類

内部構成	外部構成	具体例
Ⅰ類 [Nを(から)離れる] (自)	1)「離陸類」	例:飛行機が 空港を 離陸する。(自) 〈移動物〉 〈離脱点〉 〈離脱点〉 (下位語) (上位語)
	2)「離党類」	例:太郎が 自民党を 離党する。(自) 〈動作主・移動物〉 〈離脱点〉 〈離脱点〉 (下位語) (上位語)
	3)「離任類」	例:a. 健二が 今の職場を 離任する。(自) 〈動作主〉 〈離脱点〉 〈離脱点〉 (下位語) (上位語) (所有者) (所有物) b. 健二が 役員を 離任する。(自) 〈動作主〉 〈離脱点〉 〈離脱点〉 (下位語) (上位語)
Ⅱ類 [Nを離す] (他)	4)「離婚類」	例:山田夫婦が 離婚する(自) 〈動作主〉 〈関係〉
	5)「離縁類」	例:太郎が 長年連れ添った妻を 離縁する。(他) 〈動作主〉 〈移動物〉 〈関係〉 (所有者) (所有物)
	6)「離間類」	例:a. 恋敵が 二人の間を 離間する。(他) 〈動作主〉 〈距離〉 〈距離〉 (下位語) (上位語) b. 恋敵が 二人を 離間する。(他) 〈動作主〉 〈離脱点〉 〈離脱点〉 (所有者) (所有物) c. 恋敵が 太郎から 花子を 離間する。(他) 〈動作主〉 〈離脱点〉 〈移動物〉 〈距離〉 (所有者) (所有者) (所有物)

以下、「離 N する」の分類ごとに、(i) 内部構成、(ii) 外部構成、(iii) N'P と N の意味関係の 3 つの側面を中心に詳しく考察する。

4.1 I 類: [N を(から)離れる]

このタイプの「離 N する」は、内部構成において[N<離脱点>を(から)離れる]という意志自動詞の意味関係で結合しており、外部構成においても自動詞用法としても用いられる。このタイプには N が物理的な場所を表す「離陸類」、N が抽象的な場所(組織)を表す「離党類」、N が事柄を表す「離任類」が含まれる。

4.1.1 「離陸類」

はじめに、「離陸類」の特徴について論じる。このタイプには「離陸する」、「離岸する」、「離席する」などの動詞が挙げられる。

まず、(i)「離陸類」の内部構成について見ると、このタイプは「N を離れる」または「N から離れる」という主体の移動を表す意志自動詞の意味関係で結合しており、N は主体が離れていく<離脱点>を表す。例えば、「離陸する」は飛行機などが「陸を離れる」ことを表し、「離岸する」は船などが「岸を離れる」ことを表し、「離席する」は人が「席を離れる」ことを表す。いずれも主体(人や乗り物)が元いた場所から離れることを表す。

次に、(ii)「離陸類」の外部構成について見ると、このタイプは内部構成と同じく意志自動詞用法で、(12)のように N'P にヲ格またはカラ格を取って主語自身の移動を表す。この時、N'P には(12a)の「成田空港の滑走路」、(12b)の「成田空港」、(12c)の「成田」のように三通りの場所名詞を取ることができる。これらの N'P はいずれも「離陸」の「陸」を具体的に指定しており、主語が離れていく<離脱点>を表す。つまり、これらの N'P は N「陸」の下位語であり、両者は「下位語-上位語」の関係にあると考えられる。

- (12)a. 旅客機が 成田空港の滑走路{を/から} 離陸した。
 <動作主・移動物> <離脱点> <離脱点>
 (下位語) (上位語)
- b. 旅客機が 成田空港{を/から} 離陸した。
 <動作主・移動物> <離脱点> <離脱点>
 (下位語) (上位語)

見られる。

次に、(ii)「離党する」の外部構成を見ると、このタイプは(15)、(16)のようにN'Pにヲ格またはカラ格を取って意志自動詞用法として用いられる。この場合、「離党する」のN'Pは(15a)の「民主党を離党する」の「民主党」、(15b)の「同党を離党する」の「同党」、(16a)の「民主党から離党する」の「民主党」、(16b)の「所属政党から離党する」の「所属政党」のように主語が離れていく(離脱点)を表し、N(「党」)の下位語(ヲ格またはカラ格)となる。

- (15)a. 4月の無罪判決後、小沢氏は消費増税に反対して民主党を離党し、4度目となる新党を結成した。(朝日夕刊2012年09月26日)
- b. 同連盟は十三日、水戸市内で常任委員会を開き、原中委員長と党籍のある副委員長の計十人が同日付で同党を離党することを決めた。(東京夕刊2009年05月14日)
- (16)a. 維新に合流する国会議員は現在7人だが、民主党から離党の流れは止まらない。(朝日朝刊2012年09月29日)
- b. 維新の会は、八策に賛同し、所属政党から離党することを条件に、国会議員に参加を働きかける。(朝日朝刊2012年08月04日)

「離党類」はN'PにNの下位語を取るという点では1)の「離陸類」と共通しているが、両者は主語とNの関係において違いが見られる。つまり、「離陸類」は「旅客機が滑走路を離陸する」のようにN(「陸」)が主語(「旅客機」)にとって物理的に存在していた場所であるのに対し、「離党類」は「議員が民主党を離党する」のようにN(「党」)が主語(「議員」)にとって所属していた組織であるという点で違いがある。

以上のことから、「離党類」の意味的・構文的特徴は次のようにまとめることができる。

「離党類」:

《意味》: 議員が属していた党(N)を離れる。

《構文》: [議員]が[党(Nの下位語)]{を/から}離党する。(自)

4.1.3 「離任類」

続いて、I類の最後のタイプである「離任類」について論じる。このタイプには「離任する」、「離職する」が挙げられる。

まず、(i)内部構成について見る。「離任類」の内部構成は[Nを(から)離れる]という意志自動詞の意味関係になっており、Nは〈離脱点〉を表す。例えば、「離任する」は「任務地・任務を離れる」ことを表し、「離職する」は「職場・職を離れる」ことを表す。

次に、(ii)外部構成について見る。「離任類」の外部構成は一般に(17)、(18)のようにN'Pに〈離脱点〉を表すヲ格を取って意志自動詞用法として用いられる。この場合、N'Pは(17a)の「今の職場を離任する」の「今の職場」、(17b)の「会社を離職する」の「会社」のように組織(勤務地)を表す場合と、(18a)の「役員を離任する」の「役員」、(18b)の「部長職を離職する」の「部長職」のように職務を表す場合の二通りがある。

(17)a. 健二が今の職場を離任する。

b. 太郎が会社を離職する。

(18)a. 健二が役員を離任する。

b. 太郎が部長職を離職する。

また「離任類」は、N'Pが勤務地を表す場合は(17'a)の「今の職場から離任する」や(18'b)の「会社から離職する」のようにカラ格で表すことができるが、N'Pが役職を表す場合は(18'a)の「*役員から離任する」や(18'b)の「*部長職から離職する」のようにカラ格で表すことができない。

(17')a. 健二が今の職場から離任する。

b. 太郎が会社から離職する。

(18')a. *健二が役員から離任する。

b. *太郎が部長職から離職する。

最後に、(iii)「離任類」のN'PとNの意味関係を見る。先に述べたように、「離任する」のN'Pには勤務先を表す場合と、役職を表す場合の二通りがある。また、「離任する」の「任」は「任務地」と「任務」の二通りの解釈ができる。そのため、「離任する」のN'PとNの意味関

以上のことから、「離任類」の意味的・構文的特徴は次のようにまとめられる。

「離任類」:

《意味》:元の勤務先や役職(N)を離れる(やめる)。

《構文 a》:[人]が[組織(Nの下位語/Nの所有者)]{を/から}離Nする。(自)

《構文 b》:[人]が[役職(Nの下位語)]{を/から}離Nする。(自)

3.2. II類:[Nを離す]

このタイプは、内部構成において[N<距離/関係>を離す]という他動詞の意味関係で結合しており、外部構成においては自動詞用法として用いられるもの(「離婚類」と、他動詞用法として用いられるもの(「離縁類」、「離間類」))がある。

3.2.1 「離婚類」

はじめに、「離婚類」について論じる。このタイプに属するのは「離婚する」の1語である。

まず、(i)「離婚する」の内部構成について見ると、[婚姻関係を離す(解消する)]という他動詞の意味関係で結合しており、Nは<移動物>でも<離脱点>でもなく、変化を被る<関係>になっている。

次に、(ii)「離婚する」の外部構成について見ると、(21)の「*息子と嫁の婚姻関係を離婚する」のようにN'Pにヲ格を取らない自動詞用法である。また「離婚する」は、他のタイプの「離Nする」と違って、(22a、b、c)のようにガ格とト格で示される主体が双方向的に行為を行う点で特徴的である。この場合、(22a)～(22c)の3つの文は客観的には同一の事態を表すが、ガ格を取る主体が事態の主役となるところが異なる。

(21) 姑が(*息子と嫁の婚姻関係を)離婚する。

(22)a. 太郎が花子と離婚する。

b. 花子が太郎と離婚する。

c. 太郎と花子が離婚する。

以上のことから、「離婚類」の意味的・構文的特徴は次のようにまとめられる。

「離婚類」:

《意味》:二人が婚姻関係(N)を解消する。

《構文 a》:[二人]が離Nする(自)

《構文 b》:[人 1]が[人 2]と離Nする。(自)

《構文 c》:[人 2]が[人 1]と離Nする。(自)

《構文 d》:[人 1]と[人 2]が離Nする。(自)

3.2.2 「離縁類」

続いて、「離縁類」について述べる。このタイプに属するのは「離縁する」の1語である。

まず、(i)「離縁する」の内部構成について見ると、[縁を離す(絶つ)]という他動詞の意味関係で結合しており、Nは「離婚類」と同じく変化を被る〈関係〉を表す。

次に、(ii)「離縁する」の外部構成について見ると、このタイプは一般に(23)の「長年連れ添った妻を離縁する」や(24)の「養子縁組した息子を離縁する」のようにヲ格目的語を取って他動詞用法として用いられる。また、「離縁する」は夫婦および養親子の一方が他方との縁を断つことを表し、双方向的な行為ではない点で「離婚する」と異なる。また、(23)は夫が妻との縁を切ることを表し、主語「夫」とN'P「長年連れ添った妻」はいずれもN「縁」の所有者であるため、「夫・長年連れ添った妻」と「縁」は「所有者-所有物」関係にあると考えられる。同様に、(24)の主語「養父」とN'P「養子縁組した息子」もN「縁」の所有者であるため、「養父・養子縁組した息子」と「縁」は「所有者-所有物」関係にあると考えられる。

(23)	<u>夫</u> が	<u>長年連れ添った妻</u> を	離縁する。
	〈動作主〉	〈移動物〉	〈関係〉
	(所有者)	(所有者)	(所有物)

(24)	<u>養父</u> が	<u>養子縁組した息子</u> を	離縁する。
	〈動作主〉	〈移動物〉	〈関係〉
	(所有者)	(所有者)	(所有物)

以上のことから、「離婚類」の意味的・構文的特徴は次のようにまとめられる。

「離縁類」:

《意味》:(夫婦・養親子関係において)一方が他方と縁(N)を断つ。

《構文》:[人 1]が[人 2(Nの所有者)]を離縁する。(他)

3.2.2 「離間類」

最後に、「離間類」の特徴について論じる。このタイプには「離間する」の1語が挙げられる。

まず、(i)「離間する」の内部構成について見ると、[間を離す]という他動詞の意味関係になっており、Nは〈移動物〉というより両者の〈距離〉を表す。

次に、(ii)「離間する」の外部構成について見ると、このタイプは内部構成と同じく他動詞用法として用いられる。「離間する」は、「離婚する」、「離縁する」と違ってその行為が成立するのに3つの参加者が必要であり、参加者1(主語)が参加者2と参加者3の関係を離すこと、つまり仲たがいをさせることを表す。「離間類」のN'Pには、(25a)の「二人の間」のように離れていく二人の距離(〈距離〉)が来る場合と、(25b)の「二人」のように離れていく二人(〈移動物〉)が来る場合と、(25c)の「花子」のように離れていく二人のうち的一方(〈移動物〉)が来る場合の三通りがある。このうち、(25a)のN'P「二人の間」とN「間」の関係は、「二人の間」が「間」の下位語を表すため、「下位語—上位語」の関係にある。これに対し、(25b)のN「間」は、二人の人物が互いに距離を取り合うことによって保持されるものであり、二人の抽象的な所有物であると考えられる。そのため、(25b)のN'P「二人」とN「間」は、「所有者—所有物」の関係にあると考えられる。一方、(25b)では動作主である「恋敵」によって「二人」がともに移動して離れていくイメージであるのに対し、(25c)ではカラ格の「太郎」は元の位置に止まったままで、ヲ格の「花子」が動作主である「恋敵」によって「太郎」から引き離されていくイメージで表されている。そのため、(25c)の「太郎」は〈離脱点〉、「花子」は〈移動物〉、「間」は〈距離〉という解釈となる。同時に、(25c)の「太郎」と「花子」は「間」の所有者でもあるため、(25b)と同様に「太郎・花子」と「間」は「所有者—所有物」の関係にもあると考えられる。

- (25) a. 恋敵が 二人の間を 離間する。
 〈動作主〉 〈距離〉 〈距離〉
 (下位語) (上位語)
- b. 恋敵が 二人を 離間する。
 〈動作主〉 〈移動物〉 〈距離〉
 (所有者) (所有者)
- c. 恋敵が 太郎から 花子を 離間した。
 〈動作主〉 〈離脱点〉 〈移動物〉 〈距離〉
 (所有者) (所有者) (所有者)

また、(26)の「日米間を離間させる」、(27)の「日韓関係を離間させる」、(28)の「米国が欧州を離間させる」のように、「離間させる」という使役形が「離間する」と同じ意味を表すことができる。

- (26) 北朝鮮メディアは普天間問題での鳩山政権の対応について「沖縄の住民はもちろん、日本社会の全面的な支持を得ている」と報じた。かねて「対等な対米関係を主張してきた北朝鮮には日米間を離間させる狙いもあるとみられる。(朝日朝刊 2009年12月23日)
- (27) 日韓関係には、歴史認識の相違という「壁」がある。問題は、こうした歴史認識の相違が、日韓関係を離間させる遠心力として働いてきたことだ。そうした悪循環を断ち切ろうとしたのが、九八年の「日韓共同宣言」だった。(朝日朝刊 2000年12月21日 朝刊)
- (28) ドイツ統一問題について、ソ連は全欧安保協力会議(CSCE)の緩やかな枠内に置くことを提案した。これに対しても、同会議の強化は米国を欧州から離間させるソ連の策謀だとしてきた米国は譲った。「CFE 合意の成立後」という前提条件付きながら、CSCEの首脳会議開催に同意したのである。(中日朝刊1990年06月05日)

さらに、「離間する」の参加者は(25)のように人の場合もあれば、(26)の「北朝鮮」のように組織の場合もあれば、(27)の「こうした歴史認識の相違」、(28)の「同会議の強化」のように事柄の場合もある。

以上のことから、「離間類」の意味的・構文的特徴は次のようにまとめられる。

「離間類」:

《意味》:お互いの間(N)を離す(裂く)。

《構文 a》:[人・組織・事柄]が[二者の間(Nの下位語)]を離間する(他)

《構文 b》:[人・組織・事柄]が[二者(Nの所有者)]を離間する(他)

《構文 c》:[人・組織・事柄]が[一方(Nの所有者)]から[他方(Nの所有物)]を
離間する(他)

5. 「離Nする」のまとめ

4 節では、「離 N する」の意味的・構文的特徴について(i)内部構成、(ii)外部構成、(iii)N'PとNの意味関係の3つの側面から分析した。その結果を表4に示す。

表4 「離Nする」の諸特徴

		N'Pを取らない	N'Pを取る				
		離婚類	離陸類	離党類	離任類	離縁類	離間類
(i) Nの特徴	〈移動物〉	×	×	×	×	×	×
	〈距離/関係〉	○	×	×	×	○	○
	〈離脱点〉	×	○	○	○	×	×
(ii) N'Pの特徴	〈移動物〉	—	×	×	×	○	○
	〈距離/関係〉	—	×	×	×	×	○
	〈離脱点〉	—	○	○	○	×	×
(iii) N'PとNの関係	下位語-上位語	—	○	○	○	×	○
	所有者-所有物	—	×	×	○	○	○

表4に示すように、「離Nする」は内部構成においてはI類[N<離脱点>を(から)離れる]、II類[N<距離/関係>を離す]の2つに分けられるが、外部構成においては「離陸類」、「離党類」、「離任類」、「離縁類」、「離間類」、「離婚類」の6つに分類できる。このうち、「離婚類」はN'Pを取らないのに対し、「離陸類」、「離党類」、「離任類」、「離縁類」、「離間類」の5つのタイプはN'Pを取る。さらに、N'Pを取るタイプのうち、「離陸類」、「離党類」、「離任類」は主体の<離脱点>を表すN'Pを取って自動詞用法として用いられるのに対し、「離縁類」は

〈移動物〉を表す N'P を取って他動詞用法として用いられる。また、「離間類」も他動詞用法として用いられるが、その N'P には〈移動物〉を表すヲ格を取る場合と、〈距離〉を表すヲ格を取る場合の二通りがある。それぞれのタイプの意味的・構文的特徴をまとめると以下のようになる。

I 類: [N〈離脱点〉を(から)離れる] (自)

1) 「離陸類」

(「離陸する」、「離岸する」、「離席する」など)

《意味》: 元いた場所(N)を離れる。

《構文》: [人・乗り物]が[場所・空間(Nの下位語)]を離Nする。(自)

2) 「離党類」

(「離党する」)

《意味》: 議員が属していた党(N)を離れる。

《構文》: [議員]が[党(Nの下位語)]を離党する。(自)

3) 「離任類」

(「離任する」、「離職する」)

《意味》: 元の組織や役職(N)を離れる(やめる)。

《構文 a》: [人]が[組織(Nの下位語/Nの所有者)]{を/から}離Nする。(自)

《構文 b》: [人]が[役職(Nの下位語)]{を/から}離Nする。(自)

II 類: [N〈距離/関係〉を離す] (他)

4) 「離婚類」

(「離婚する」)

《意味》: 二人が婚姻関係(N)を解消する。

《構文 a》: [二人]が離Nする。(自)

《構文 b》: [人 1]が[人 2]と離Nする。(自)

《構文 c》: [人 2]が[人]と離Nする。(自)

《構文 d》: [人 1]と[人 2]が離Nする。(自)

5) 「離縁類」

(「離縁する」)

《意味》:(夫婦・養親子関係において)一方が他方と縁(N)を断つ。

《構文》:[人1]が[人2(Nの所有者)]を離縁する。(他)

6)「離間類」

(「離間する」)

《意味》:お互いの間(N)を離す(裂く)。

《構文 a》:[人・組織・事柄]が[二者の間(Nの下位語)]を離間する。(他)

《構文 b》:[人・組織・事柄]が[二者(Nの所有者)]を離間する。(他)

《構文 c》:[人・組織・事柄]が[一方(Nの所有者)]から[他方(Nの所有物)]
を離間する。(他)

このように、V-N型漢語動詞については、NとN'Pの関係だけでなく、NとN'PとVの三者間の関係が統語機能に影響を与えていることが分かる。このことからV-N型漢語動詞の意味的・構文的特徴の解明にはNとN'PとVの3つの要素を合わせて分析することが重要であることが明らかとなった。「除Nする」と「離Nする」に限らず「脱Nする」や「退Nする」、「入Nする」、「出Nする」など、日本語には動詞的要素と名詞的要素が格関係で結合されたV-N型漢語動詞がたくさんある。今後このような個別的研究を積み重ね、V-N型漢語動詞の内部構成と外部構成の関わりについてさらに考察を深めたい。

[参考文献]

北原保雄編(2010)『明鏡国語辞典(第二版)』大修館書店

小林英樹(2001)「動詞的要素と名詞的要素で構成される二字漢語動名詞に関する再考」
『現代日本語研究』8, 75-95

小林英樹(2004)『現代日本語の漢語動名詞の研究』ひつじ書房

朱 京偉(2006)「中日 V+N 動賓結構二字比較」『関西大学視聴覚教育』29, pp.95-107

張 善実(2013a)「漢語サ変動詞「除Nする」の意味と構文」『言葉と文化』14, pp.19-35

張 善実(2013b)『日本語の V-N 型漢語動詞の語構成論的研究—離脱・帰着を表す動詞
を中心に—』博士学位論文, 名古屋大学

中川秀太(2005)「推論によるVNの外部表示の特殊化」『日本語文法』5-1, 89-103

松村明監修(2006)『大辞泉増補・新装版(デジタル版)』SHOGAKUKAN

森田良行(1989)『基礎日本語辞典』角川書店